

佳作

パパのくつ下

福島県
郡山市立高倉小学校 三年

佐々木 夏奈

私のパパは、ガソリンスタンドではたらいっています。こしよ
した車を直したり車にガソリンを入れる仕事をしています。

朝は、私たちより早く起きて仕事にでかけます。帰りは、
私たちがねるころです。土曜や日曜も毎週休みではないので、
私は、パパが好きなものになかなか会えなくてさみしいです。

パパのきれいな所があります。それは、「くつ下のおい」
です。大好きなパパだけど、私のパパのくつ下は、とてもくさい
のです。たまに会社から早く帰ってくるとはいているくつ下を
まるめて私やお姉ちゃんに投げてきます。パパは、私たちに、

「くつ下くさいヨ。」

と言われるとわらって私の鼻にくさいくつ下をもっと近づけ
ます。そしてくつ下を床におきっぱなしにしておきます。

ある日、パパの仕事がお休みの夜、パパは私に、また、くつ下を

投げてきました。私は（うっ。くさっ。）と思っていたらその日の
くつ下は、くさくありませんでした。私は、（あれっ。）と思いま
した。そしてよく考えてわかったことがありました。それは、
パパのくつ下は、会社から帰ってきた時は、くさいくつ下だけ
お休みの時は、くさくないのです。パパは会社で、私たちのため
に、あつい夏も、さむい冬もがんばって仕事をしているんだと思
いました。私は、パパにひどいことを言ってしまったなあ。と思い
ました。だからパパのくつ下は、くさいけど「くさい。」と言わ
ないでせんとくきまで運んであげることにしました。

パパ、いつも「くつ下くさいヨ。」と言ってごめんね。いつも

私たちのためにはたらいてくれてありがとう。だけどあんま
りむりしないでね。そしてときどき早く帰ってきて、たたかい
ごっこをいっしょにしたいな。